

三重

MIE

mie@mainichi.co.jp

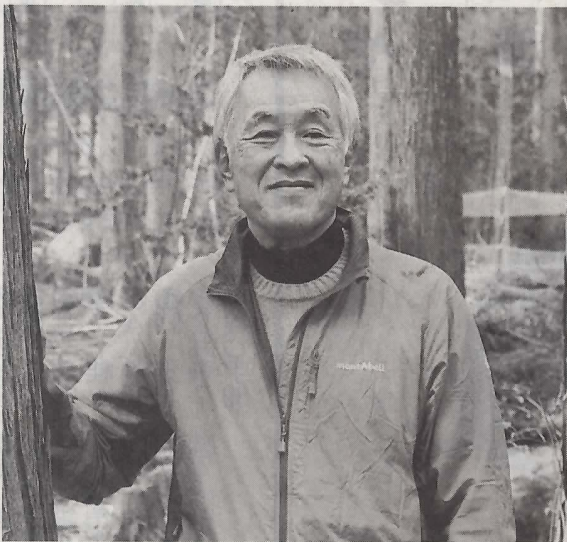
「水源の森」保全に注力

「豊かな森林を未来に残そうをモットーに、県の北勢地域で企業とタイアップして森林整備に取り組む認定NPO法人「森林の風」。その設立に関わり、15年間、グループをけん引してきたのが、会長の瀧口邦夫さん(71)＝四日市市三滝台＝だ。長年の活動が評価され、昨年10月、国土緑化推進機構の「ふれあいの森林づくり」で最優秀の会長賞を受賞した。「これからもきちんと山を管理し、涵養機能の高い「水源の森」を保全していきたい」と意欲を不す。【松本直良】

「林業の衰退で荒廃したレベルアップと人材育た人工林を整備し、豊かな成を兼ね、スタートと同等な森に生き返らせたい」。時に勉強会を始めた。もそんな思いで2005 とも最初の頃は、山主年、間伐などに取り組むから『あんならにできるNPO法人を仲間10人でんか』とよく言われた」と苦笑する。

趣味的な活動ではなく、森林組合のバックアップも受け、CSR(企業エーンソーの扱い方、木の社会的責任)の一環での切り方、倒し方、枝打森づくりに取り組む企業ち、測量……。メンバーをサポートするなど、徐

NPO「森林の風」会長 瀧口 邦夫さん(71)



々に実績を重ねながら技術力を上げていった。軌道に乗るのに7年くらいかかった」と振り返る。これまで企業などと契約し、手掛けた森林面積は優に100畝を超えるが、この間の活動で買ってきたのは、森林環境を保全する視点だ。林内に残す樹木は切ったままの状態ではなく、必ず横に寝かせている。土壌や種

子の流出を防ぎ、落ち葉を堆積させて土壌を豊かにするため、「うちが預かっている山はほとんど崩れていない」と自負する。さらに、きちんと間伐することで「暗かった林内に光が入り、森が見違えるように健康になってきている」と整備の心遣いも実感している。間伐にとどまらず、広葉樹の植樹やナラが枯れ

る現象の調査、樹木の精油抽出など活動の幅も広がっている。近年は小中学校の児童・生徒らを森に連れて行ったり、生態系について教えたりする森林環境教育にも力を入れている。「林業家ではなかなかできない、NPOならではの取り組みも大事と考えている。『NPO林業』とも呼ぶのでしょうか」

現在、菟野町に活動拠点を置くが、施業し教育の場にも活用できる、自分たちの森を持つのが夢という。「そこにハゼ、ウルシ、コウゾ、ミツマタなど昔から生活に関わってきた広葉樹を植え、訪れた人たちが森について語り、考えたい」

《メモ》 たきぐち・くにお 現在、メンバーは40代半ばから80代後半までの30人。「森づくりに関心のある人を増やしたい」と、今年も育成講座「まちなきのこり人」の参加者を募集する。問い合わせは森林の風・事務局 (090・6590・0011)。

彩人旬人